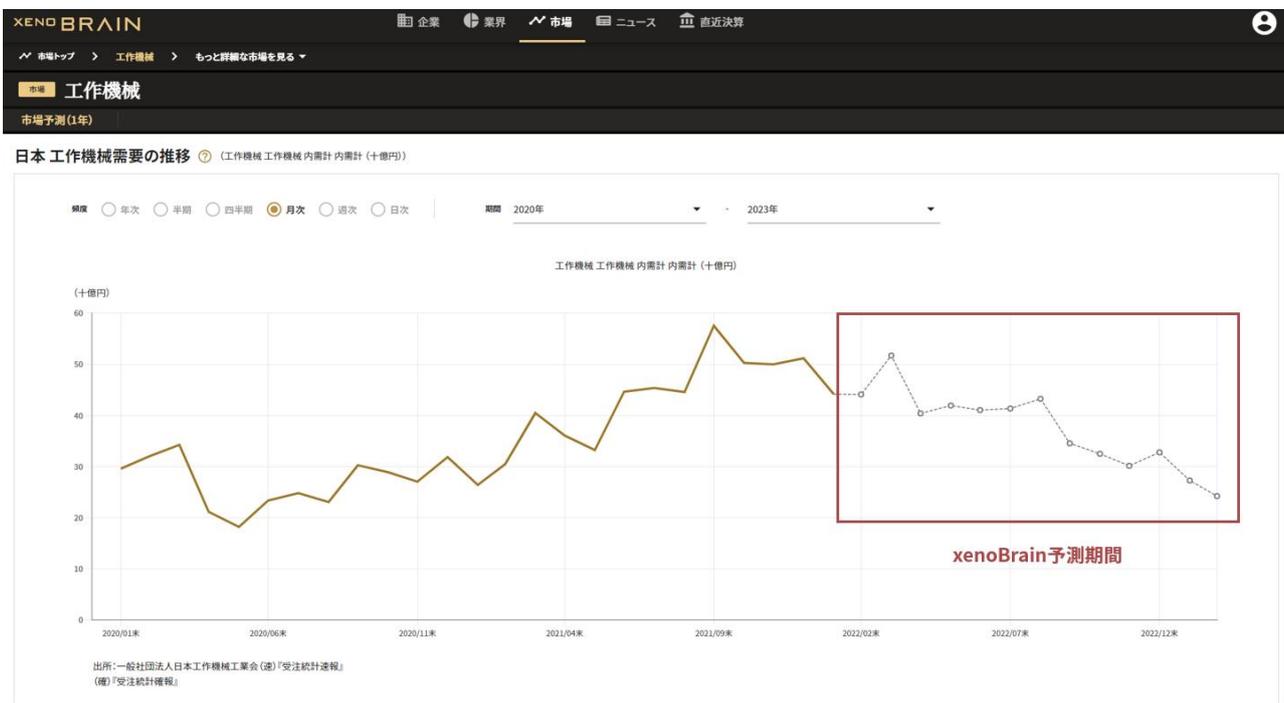


経済予測専門のクラウドサービス『xenoBrain』、  
ニュースのテキスト情報等から、市況や産業統計の推移を1年先まで予測  
日経平均、原油価格、自動車販売台数等、約2万5千項目の自動予測を提供開始

経済予測専門のクラウドサービス「xenoBrain（ゼノブレイン）」を提供する株式会社 xenodata lab.（本社：東京都渋谷区、代表取締役：関洋二郎、以下「当社」）は、この度、ニュースのテキスト情報等から複数のディープラーニング等のモデルを用いて、日経平均や原油価格などの市況、生産動態統計や各業界主要統計を含む産業統計、約2万5千指標について1年先までの予測を実現し、本日より xenoBrain 内の新機能（機能名：市場予測）として提供開始いたします。

<本リリースの予測結果を無料で見れるレポート>

[ロシアによるウクライナ侵攻後の市場予測](#)



## ■ 『市場予測』機能概要

今回リリースする市場予測では、xenoBrain が提供する市場予測は、1日3,000本のニュースや3万以上の統計データを、複数のディープラーニング等のモデルで学習し、定量データ（市場需要や材料価格等）の予測を行う国内初の汎用型経済予測モデルによる経済予測です。

## ■ 『市場予測』機能の主な予測対象

<国内・海外マクロ>

物価、日銀短観、貿易統計、国際収支、労働統計、景気動向調査、財政、家計調査、地価 他

<産業統計>

建設業、食料品、繊維、生活用品、紙・パルプ、化学、医薬品、石油製品、窯業、鉄鋼、非鉄金属、電機、機械、輸送機械 等の価格・販売量・生産量 他

<市況>

原油価格、小麦、貴金属、綿花、食品、穀物 他

<金融>

金利、債券価格、株式指数、先物価格、為替、オプション、スワップ、社債、銀行取引 他

## ■ 『市場予測』機能の主なご活用ケース

経営企画部門：原材料価格や製品需要動向を簡単に把握することで原材料調達、設備投資の意思決定や予算策定、又は、経営会議で利用する市況の見通し資料作成などにご利用できます。

調達企画部門：原材料や部品調達時の戦略を立てるとき、価格や調達タイミングを検討する材料としてご利用できます。

営業部門：営業予算策定時に、各業界の1年程度の見通しを客観的数値で確認することで、精度の高い予算計画を策定、又は、その議論の土台としてご利用できます。

マーケット部門：株式相場やコモディティ相場の動向を確認し、今後1年程度で市況がどのように動くかを把握することで投資判断の材料としてご利用できます。

## ■ 『市場予測』機能の特徴

非構造化データであり、定量データの予測に利用することが難しいとされているニュースデータから特徴量を抽出し学習しております。ニュースを学習することで、様々な業界の指標を一つの仕組みで予測できる汎用型の予測システムを実現しました。

<ニュースから特徴量抽出ができることによるメリット>

メリット1：汎用的な予測が可能になる

当社は、業界専門誌、通信社、海外紙、地方紙等の多数のニュースを米国ダウ・ジョーンズ社から受領しており、自動車産業、半導体産業などのあらゆる産業に関連する経済事象をインプットして予測をすることが可能です。予測対象業界や予測対象指標ごとに学習データを準備したり、モデルのパラメータの調整をする必要がないため、汎用的な予測が可能となっています。

メリット2：数値データになるよりも早くに材料を考慮できる

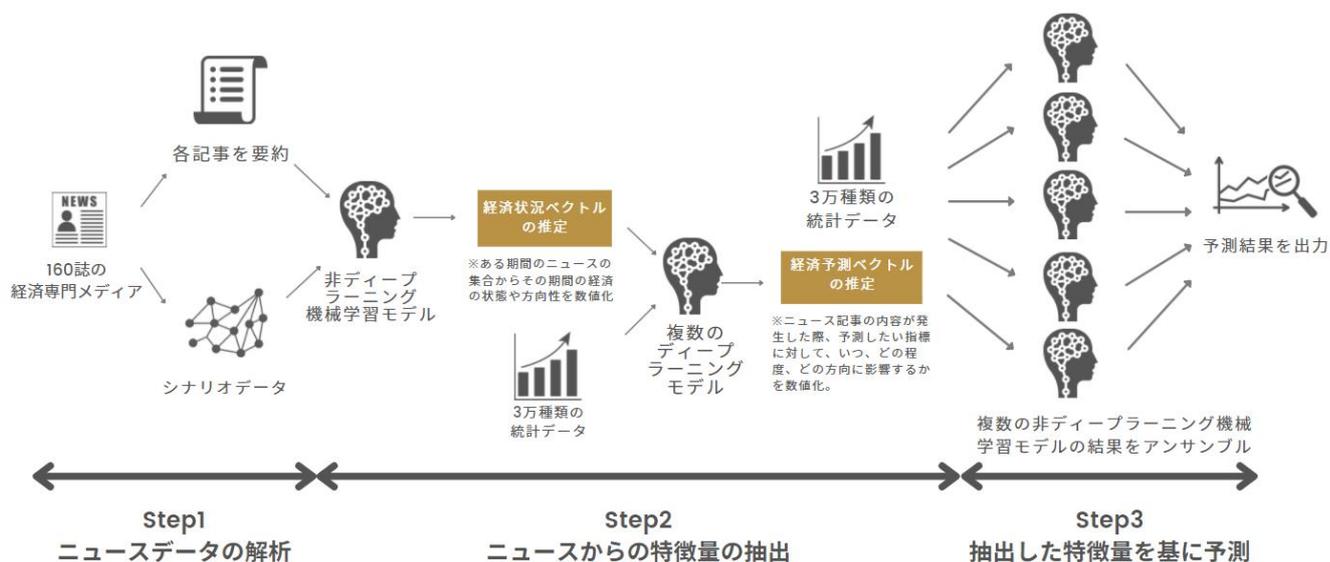
ニュース自体の特徴として、数値データに出るよりも早くに材料として市場に出ることが多いです（例えば、自動車メーカーが減産を発表したニュースは、自動車販売台数や自動車部品の需要が統計データに出るよりも早くに市場に出ます。）。そのため、統計データなどの定量データのみから学習し、予測する場合よりも、精度の高い予測が可能になります。

## ■ 予測精度について

xenoBrain では全統計について精度検証を行い、一定以上の精度が出ると判定した統計（2万5千統

計)を提供しています。そのうち最も重要な約 6,000 指標についての 6 か月後の予測精度検証結果は、平均二乗誤差 11.315、相関係数 0.768、平均誤差率 0.120 です。継続的に改善しておりますので、今後さらに高い精度になっていくものになります。最新の精度検証結果はサービス内で開示してまいります。

## ■『市場予測』機能の仕組み



### Step1 ニュースデータの解析

約 160 の国内経済専門メディアから配信を受ける 1 日 3,000 本以上の経済ニュースを、独自の自然言語処理により要約、構造化データ (※1) を生成します。

### Step2 ニュースからの特徴量の抽出

Step1 で解析した構造化データから、「経済状況ベクトル」、「経済予測ベクトル」(※2) という 2 段階の解析で予測対象に対する特徴量の抽出を行います。

### Step3 抽出した特徴量を基に予測

Step2 で抽出した特徴量、及び、3 万指標の統計データを学習データとして、5 つの予測モデルを開発し、それぞれ予測値を算出。様々な状況でも予測精度全体として精度が最適化されるように、各予測モデルの特性を鑑みてアンサンブルして最終予測結果を算出しています。

※1 構造化データ：ここでは自由形式の日本語文章の内容を解析し、「自動車 (Item) 需要 (Element) 増加 (Predicate) ⇒自動車部品 (Item) 需要 (Element) 増加 (Predicate)」のように、事象の要因と結果それぞれを各要素に分解し、それらを因果関係として繋げたりしたもの。

※2 経済状況ベクトル、経済予測ベクトル：特許申請中の独自技術で、ニュース記事の内容が発生した際、予測したい指標に対して、いつ、どの程度、どの方向に影響するかなどを数値化したもの。

## <ご導入企業様コメント>

大手エンジニアリングプラスチックスメーカーであるポリプラスチック株式会社 事業創出本部 ICT

企画統括部 平田様からのコメント：

現在 xenoBrain を、業界や企業に影響するシナリオなどの調査で活用しています。今回の新機能のリリースにより、自社の販売製品であるポリアセタール、ポリエチレンテレフタレートなどの需要予測や顧客である自動車メーカー様の市況動向を知る事ができるため、新機能を活用し今後より精緻に販売計画を立てたいと思っています。

#### ■今後の予定について

本予測モデルは高い汎用性があるため、統計データ以外にも様々なデータの予測が可能です。今後は顧客の個別製品の需要予測など、社内データの予測を受注する新形態のサービスを提供する予定です。

#### ■経済予測専門のクラウドサービス「xenoBrain」について

経済ニュースや企業開示資料、統計を独自の AI で解析する事で、様々な経済情報を予測する AI クラウドサービスです。経済事象と経済事象のつながりを解析し、企業業績・素材価格や業界需要などの経済トピック・統計を予測することで事業会社の経営意思決定や金融機関の業務効率化をサポートします。米国ダウ・ジョーンズ社や時事通信社といった大手メディア、帝国データバンクとの提携により信頼性の高い情報を収集・解析しています。

- ・提供開始（正式版）：2019年6月
- ・URL: <https://service.xenobrain.jp/>

#### ■ゼノデータ・ラボの会社概要

会社名：株式会社 xenodata lab.

所在地：〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-28-6 VORT 渋谷松濤レジデンス 1001

設立年月日：2016年2月12日

代表者：代表取締役 関 洋二郎

<https://www.xenodata-lab.com/>

#### ■本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 xenodata lab.

広報担当 北口 万里子

Email：pr@xenodata-lab.com